

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (新規・変更・実績)

平成30年4月24日

北アルプス地域振興局

| | | | | | | | |
|---------|--|--|--|----------------|--|---|----|
| 提出区分 | 実績 | | | | | | |
| 整理番号 | 26 | 課題区分 | B | | | | |
| 実施機関 | 北アルプス地域振興局 | | | 担当課 | 所属 | 環境課 | |
| 事業名 | 大北地域の快適な住まいを考えるセミナー開催事業 | | | | 電話 | 0261-23-6563 | |
| | | | | E-mail | kitachi-kankyo@pref.nagano.lg.jp | | |
| 事業概要等 | 目的 (目指す姿) | 一年の寒暖差が激しい大北地域で快適で健康な生活を営むには、冬季は住宅の熱を外に逃さず、夏季は外からの熱の侵入を防ぎ、住宅の断熱性を高めることが重要。大北地域に暮らす方に、健康で快適な住まいについて学ぶ機会を提供し、断熱性の高い住宅の普及を目指す。 | | | | | |
| | 現状と課題 | ・県の死亡者数は冬季に多い。 ・老朽箇所改修や耐震改修のリフォームに比べ、断熱性を高めるリフォームは普及していない。 ・他地域に比べ大北地域は冬の寒さが厳しい。 | | | | | |
| | 内容 (変更後の内容) | 1 講演 ①講師: 高木直樹氏(信州大学工学部建築学科教授)「健康で快適な住まいとは」 ②講師: 青木和壽氏(和建築設計事務所代表取締役)「断熱性を高める住宅のつくりかた」 2 大町保健福祉事務所保健師による住まいのヒートショックの話 3 H30年度の県の取組の紹介 ①「建築物の省エネ改修サポート制度」②「環境配慮型住宅助成金制度」 | | | | | |
| | 実施期間 | 平成30年3月 | | | ～ | 平成30年3月 | |
| | 成果目標 | ・受講者数: 50名以上 (対象: 地域住民、建築士会会員、民間事業者、市町村職員他) | | | | | |
| 事業費等 | 事業費 | 47,860 円 | | | | (単位: 円) | |
| | 節区分 | 主な内容 | 当初計画額 a | 変更(最終)計画額 b | 実績額 c | 差引 b-c | 備考 |
| | 8 | 講師報償費 | 38,400 | 38,400 | 38,400 | 0 | |
| | 9 | 講師旅費 | 9,460 | 9,460 | 9,460 | 0 | |
| | | | | | | 0 | |
| | | | | | | 0 | |
| 計 | | 47,860 | 47,860 | 47,860 | 0 | | |
| 事業実績・成果 | 事業実績 | | 事業の成果 | | | 評価 | |
| | ・本事業は環境、健康、建築分野に関連する横断的課題のため地域振興局、保健福祉事務所、建設事務所と共催して実施。 ・当地域で本事業を開催するのは初。 ・健康福祉、建築関係者を始め地元紙を通じて参加を募集。また市町村も地域の回覧板や各種会議を通じて参加の呼びかけに協力。結果予想を超える70名の参加があった。 | | ・参加者のアンケートから、寒い地域のため今後も本事業の継続を望むなど好評を得た。 ・本事業は環境部「建築物の省エネ改修サポート制度」、建設部「環境配慮型住宅助成金制度」を推進するもので、地域に各事業の理解と周知を図ることができた。 | | | <input type="radio"/> 期待以上 <input checked="" type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下 | |
| 今後の方向性 | ・参加者から本事業の継続を要望する声が出ていることから次年度も開催を予定。 ・時期は寒くなる直前の10月。 ・現在考えている内容 ①医師の立場から考える健康と住まい ②部屋に必要な湿度、単層ガラスと複層ガラスを比較した結露とカビの発生の実演 | | | | | | |